

## 「地域発 元気づくり支援金」平成25年度事業に係るフォローアップ調査

## 取組事例一覧

地域振興局	タイトル	団体名
佐久	『ワンツー・コイン』で佐久のこんな店あんな店がざっくざく	佐久商工会議所青年部（佐久市）
上田	美ヶ原トレイルラン&ウォークinながわ/後夜祭	美ヶ原トレイルラン&ウォークinながわ大会実行委員会（長和町）
諏訪	個店を繋ぐ！地域を繋ぐ！ちの×すわまちゼミ事業	茅野商工会議所（茅野市）
上伊那	人形芝居「切竹紋次人形」再興事業	中川人形保存会（中川村）
南信州	けもかわプロジェクトを通じた有害鳥獣の皮革等の活用事業	けもかわproject(泰阜村)
木曾	住民協働によるまちづくり（夜の観桜会 事業）	大桑元気な会（大桑村）
松本	城下町松本 おもてなし向上の推進	まつもと城町市民コンシェルジュ（松本市）
北アルプス	塩の道博物館から塩の道ちょうじやへ（塩の道コミュニティエリア再生事業）	一般社団法人 縁家（大町市）
長野	ノーマライゼーションの推進事業	えんがわ（千曲市）
北信	志賀高原ユネスコエコパーク蓮池外来種駆除事業	志賀高原観光協会（山ノ内町）

元気づくり支援金を効果的に活用し、その後も発展的に事業を継続している団体等の皆様から、最近の活動内容や今後の事業展望等についてお伺いしました。

地域づくり活動の参考となるような取組を各地域から報告いただいています。

## 『ワンツー・コイン』で佐久のこんな店あんな店がざっくざく (佐久商工会議所青年部)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

45歳までの若手経営者や後継者が地域を支える青年経済人として自己研鑽に励み、地域の経済的発展の支えとなり新しい文化的創造をもって豊かで住みよい郷土づくりに貢献することを目指している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H26	地域の需要喚起策『ワンツー・コイン』で佐久のこんな店あんな店がざっくざく!! ～お客様への想いを店主の心意気で倍返し感動を～	地域の商工業者が連携し、ワンコイン(500円)・ツーコイン(1,000円)で利用できる商品やサービスを掲載した冊子を作成し、消費者にお店を広く知ってもらい、来店の動機づけとすることで、地域経済の活力を促す。景品付きのスタンプラリーを実施することで利用促進につなげた。	1,826千円
H24	佐久の盛り場 屋台村「なごみ横丁」でまちの活性化!	地元商店会、市内飲料組合、酒造組合、信州佐久ケーキ職人の会等と協力しながら昭和の街並みを再現した屋台横丁を期間限定で設営し、幅広い世代の交流の場、地元飲食や商店街の活性化につなげた。	2,964千円

### 最近の活動内容

「ワン・ツーコイン」事業については、佐久商工会議所青年部から佐久商工会議所へ主管を移し、現在も継続実施している。

H28.9月には125店の商工業者が参加。

H29.3月には業種の幅を広げるためプラチナ25万円を追加。

11月にも実施を予定している。

またH29年度は元気づくり支援金を活用した「海から一番遠い「saku」海の家!?!」事業を実施し、中部横断自動車道の早期全線開通に向けた事業をおこないメディアにも多数注目された。



【参加店舗では、行列のできるお店も】

### 取組の効果

参加店舗では、市場調査の場として反響の大きかった商品を店の定番メニューとするお店や再来店に繋げる為の割引券やクーポン券等を配布するお店もあり、写真の撮り方やタイトル、文言など独自に工夫する店舗も見られた。

また、印刷会社がオリジナル冊子を作成し、ワンツーコインの企画を実施するなど、商工業の活性化の一助を担う事業として発展している。

### 課題、今後の事業展開など

飲食店と物販など業態による利用頻度に差があるため、商品やサービスの魅力を高めるためのブラッシュアップ支援や、更なる効果が発現できるような工夫（業態ごとの利用店舗数に応じ景品をプレゼント）、事業終了後も効果が続くような仕掛けや取組み等を考えていく。

団体名 佐久商工会議所青年部（佐久市）

連絡先 0267-62-2520

（佐久商工会議所）

ホームページ <http://www.saku-yeg.com/>

## 美ヶ原トレイルラン&ウォーク in ながわ/後夜祭 (美ヶ原トレイルラン&ウォーク in ながわ大会実行委員会)

### 団体紹介 (私たちが目指しているもの)

近年、全国各地でトレイルランコースが増えてきているが、当コースは日本屈指の景観と 100km を越すコース設定が好評で、着実に支持を集めている。大会では多くのボランティアスタッフや交通安全協会など地域団体の協力ほか、住民による沿道での応援もあり、地域との一体感が出てきており、地域住民と連動しながらより魅力ある大会の運営を目指している。

日本の名峰が望める「美ヶ原・霧ヶ峰 中央分水嶺トレイル」を活かし、地域住民との一体化の形成、大会参加者の宿泊によるペンションの稼働率向上を目的として活動している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H25	美ヶ原トレイルラン&ウォーク in ながわ/アウトドアまつり	信州・長和町観光協会で管理運営しているロングトレイル「霧ヶ峰・美ヶ原 中央分水嶺トレイル」を活用し、観光振興を目的に平成 23 年から山岳マラソン大会「美ヶ原トレイルラン&ウォーク in ながわ」を開催している。長和町大門鷹山地区、ブランシュたかやまスキー場をメイン会場とした人気の大会である。	960 千円
H26	美ヶ原トレイルラン&ウォーク in ながわ/後夜祭	上記イベントに新たに後夜祭イベントを追加することで、ランナーを中心としたお客様への慰労とおもてなしを行い、連泊へつなげていく。	1,114 千円
H27	美ヶ原トレイルラン&ウォーク in ながわ/後夜祭	協賛施設へ大会オリジナルのペナントを配布し軒先に掲示したり、地域らしさを出したエイドメニューを拡充しランナーへのおもてなしを強化した。	1,613 千円

### 最近の活動内容

H28、H29 年度も引き続き大会を開催し、1,500 名前後の参加者規模を維持している。

### 取組の効果

1,500 名前後の参加者規模を維持し、7月のスキー場閑散期に1,000泊(連泊含む)前後の宿泊利用を生み出している。

資金面では支援金終了後は宿泊施設に大会協力金を拠出してもらい運営費にするなど、地域をあげた取組により効果を継続させている。



【大会ゴールの様子】

### 課題、今後の事業展開など

引き続き、全国で高い評価を得られる大会を目指し、地域住民と連携しながらスキー場閑散期の目玉イベントとして取り組む。

団体名	美ヶ原トレイルラン&ウォーク in ながわ大会実行委員会 (長和町)
連絡先	小県郡長和町古町 2 4 2 4 - 1 9

## 個店を繋ぐ！地域を繋ぐ！ちの×すわまちゼミ事業 (茅野商工会議所)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

茅野商工会議所は、昭和41年11月に設立された商工業者の力で作る、地域総合経済団体である。地域産業の振興と商工業の支援、小規模事業者に対する経営支援事業を中心に、地域内における商工業の総合的な改善発達を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資することを目的に様々な活動を展開している。まちゼミ事業もその一環として、個店の販路開拓、地域の賑わいづくり事業として実施をしている。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H26	得するまちのゼミナール「まちのゼミ」	店主が講師となって少人数制のゼミを開催。講座を通じて参加者との信頼関係を作り、お店のファンづくりを行う。	1,250千円
H27	個店を繋ぐ！地域を繋ぐ！ちの×すわまちゼミ	隣接する諏訪市とまちゼミを合同開催する。行政の枠を越えた周知や、講師店舗の交流を図る。	1,768千円

### 最近の活動内容

現在も年2回、春と秋にまちゼミを継続して開催している。本事業開始時には30程度であった講座数も、現在は40近く実施しており、参加者数も325名から最大680名まで増加した。支援金を活用したことで、効果を実感した店舗が継続して参加を続けており、宣伝方法等も参加店舗の意見を取り入れて柔軟に変更するなど、参加店舗が主体となったの事業推進につながりつつある。

諏訪市のまちゼミとは現在も開催時期を合わせ、それぞれのチラシにお互いの開催告知スペースを設けるなど、連携を続けている。



【講座の様子】

### 取組の効果

講座後のアンケート結果によると、講座参加者の7割がまちゼミをきっかけにお店へ初来店し、さらに参加者の約6割が講座後に再来店しており、お店を訪れるきっかけづくりになっている。

また、例年開催時期になると、市民からの問い合わせが多く寄せられるなど、街の賑わいづくりにもつながっている。



【開催後の結果報告会の様子】

### 課題、今後の事業展開など

今後は継続した開催を続け、参加店舗と共に育てていく事業を目指す。そのために開催後の反省会を大切にして、ブラッシュアップを続けて行くことが重要となる。

団体名	茅野商工会議所（茅野市）
連絡先	0266-72-2800
ホームページ	<a href="http://www.chinocci.or.jp/">http://www.chinocci.or.jp/</a>

## 人形芝居「切竹紋次人形」再興事業 (中川人形保存会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

江戸末期、中川村田島地区に人形師切竹紋次によりもたらされた人形である、「切竹紋次人形」を、郷土芸能として再興を図るとともに、村の先人から継承された文化を次の担い手へ引継ぐことで、郷土愛の醸成を図る取組である。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H24	人形芝居「切竹紋次人形」再興事業	江戸時代に中川村で盛んであった「切竹紋次人形」芝居を復活させ、村文化の伝承と世代間交流を図る。	893 千円
H25			480 千円
H26		50 年前に途絶えた中川村の人形芝居を再興し、伝統文化として伝えて行くために、人形芝居の公演を行ったほか、将来の後継者である小学生の関心を高めるため、体験学習等を実施した。	819 千円

### 最近の活動内容

- ・ 定期公演及び演技指導会を開催
- ・ 小学校人形クラブへの実技指導
- ・ まほらいな市民大学、伊南市町村議会連絡協議会議員研修会等にて公演を実施
- ・ かつて人形浄瑠璃が行われていた中川村横前地区での“里帰り公演”を実施
- ・ 村内外の敬老会等での公演



【“里帰り公演”の様子】

### 取組の効果

- ・ 中川村立中川西小学校において、クラブ活動の一つとして人形浄瑠璃のクラブが発足し、中川人形保存会が実技指導を行いながら定期的に活動し、小学生への伝統芸能の継承が図られた。
- ・ 昭和 20 年に学童集団疎開していたお礼として、人形を寄贈してくれた東京都世田谷区と中川村内の方々と平成 25 年 3 月には有志の会が立ち上がり、小学生を交えて交流会を開催。



【中川西小学校人形クラブ】

### 課題、今後の事業展開など

- ・ 団体の活動を次世代へ継承していくため、広く子ども達に知ってもらうために村内小学校へ呼びかけを行っている。
- ・ 継続的な事業実施のため、保存会員会費のほか、賛助会員を呼びかけて寄付金を募って運営している。

団体名	中川人形保存会（中川村）
連絡先	代表 大場茂明
	0 2 6 5 - 8 8 - 2 6 2 0

## けもかわプロジェクトを通じた有害鳥獣の皮革等の活用事業 (けもかわ project)

### 団体紹介 (私たちが目指しているもの)

「けもかわ」は「獣、かわいい」と「獣の皮」の2つを組み合わせた造語。有害鳥獣として駆除されるはずだった鹿や猪の皮(革)を製品として有効活用し、消費者に届けることで、命の大切さを伝えていきたいと考えている。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

鳥獣皮革製品を本格的に製作・販売していく体制づくりを村内で進めると共に、各種イベントや体験教室を中心に女性をターゲットとしたPR、次世代の担い手育成のための猟師体験イベント等を実施した。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H26	けもかわプロジェクトを通じた有害鳥獣の皮革等の活用と地域活性化事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種イベント出展、体験教室実施、ネット販売、着ぐるみによる認知度拡大</li> <li>製作スタッフとして村内女性を雇用、技術研修、商品メニューの充実</li> <li>猟師暮らし体験イベント実施</li> </ul>	1,289 千円

### 最近の活動内容

#### 1 イベント参加

東京の銀座 NAGANO、長野駅などの村外イベントに出展して PR している他、依頼に応じてクラフト体験事業を実施し、革の活用方法の PR 等をしている。本年度の参加回数(見込)は10回程度

#### 2 企業連携、タイアップ

皮革製品の製作・販売に取り組むなかで、長野県(地域振興課、障がい者支援課、鳥獣対策・ジビエ振興室)、県内の障害福祉サービス事業所(とんぼハウス(上田市)、チャレンジセンター笑顔の時間(伊那市))と連携して「県職員用の鹿革製名札ケース」を製作し、3年間で1,000個以上を売り上げた。



【県内企業 鹿革クラフト体験の様子】

### 取組の効果

#### 1 雇用と交流の創出

皮革製品の製作が、遠くに働きに出られない、小さい子供を持つ母親の働く場になると同時に、母親同士の交流の場になっている。製作スタッフは現在4人。

#### 2 教育・啓発

皮革製品の製作・販売やクラフト体験を通して、有害鳥獣問題や命の大切さを伝えている。



【南信州広域連合イベント 鹿革クラフト体験の様子】

### 課題、今後の事業展開など

泰阜村食肉加工所と連携することで、加工場に入った獣肉の皮を有効活用できるようになった。現在は製品加工に力を入れているが、将来的には皮革の素材販売に取り組みたい。

団体名	けもかわ project(泰阜村)
連絡先	090-3210-0305
ホームページ	<a href="http://kemokawa.wixsite.com/home">http://kemokawa.wixsite.com/home</a>

## 住民協働によるまちづくり（夜の観桜会 事業） （大桑元気な会）

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

住民協働により村の自然文化を観光資源として活用すべく発足した有志の会により、4月下旬、大桑村スポーツ公園周辺で夜の観桜会を開催している。ライトアップの増加やアトラクション、屋台等の充実により活動範囲を拡大し、地域活性化を目指している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H24	夜の観桜会	大桑村スポーツ公園周辺約 200mの八重桜並木を投光器とかがり火の照明で演出し、地域住民が夜桜を楽しみながら、協働の準備作業等を通じて絆を深めるとともに観光資源としての活用機運を盛り上げる。	355 千円
H25	夜の観桜会	4月下旬大桑村スポーツ公園周辺で夜桜のライトアップを行う。昨年よりさらに活動を拡大し、集客と知名度の向上を図る	625 千円
H26	夜の観桜会	4月下旬大桑村スポーツ公園周辺で夜の観桜会を開催する。ライトアップの増加やアトラクション、屋台等の充実により活動範囲を拡大し、さらなる集客を図る。	994 千円

### 最近の活動内容

毎年4月最後の金曜日・土曜日の二晩に、大桑村スポーツ公園の八重桜並木で夜桜祭りを開催しており、すでに平成24年度元気づくり支援金の交付開始以来、今年で6年を経過しているが、多くの村民（約1,500人）が集うイベントとして地域に定着した恒例行事となっている。

また、事業の拡大として花卉栽培を行っており、秋の収穫祭の際にはステージやメイン会場に花を提供し、地域のイベントが盛り上がるよう活動を行っている。



【アトラクションの様子】

### 取組の効果

観桜会の準備段階から住民協働による親睦交流が深まる。

露店（地元商工会等）や地元の太鼓・アルプフォルン等といった団体のアトラクションを行うことで、他団体との連携、協働につながっており、地域あげてのイベントとなっている。

継続イベントとなり認知度が上がり、参加者・協力者とも増加している。



【観桜会の様子】

### 課題、今後の事業展開など

村外からの参加者、観光客等にPRを行い、大桑村の良さを知ってもらえるように活動していきたい。

団体名	大桑元気な会（大桑村）
連絡先	0264-55-1020 （大桑村教育委員会 内）

## 城下町松本 おもてなし向上の推進 (まつもと城町市民コンシェルジュ)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

観光雑誌やネットの情報だけではない、その日・その時の松本の旬を伝えることにより、住んでいるように町を楽しんでもらいたい、使ってもらいたいという思いから、前回の信州DCの前年(H21)よりJR松本駅との協働という形で活動を開始した。

「松本ならではの」と「松本近郊地域の広域観光」という2点の視点での観光案内と、その土地の特徴を活かした土産品の開発にも力を入れている。

インバウンドに対応した地図(松本観光コンシェルジュロコミマップ英語版)とともに、住民目線を観光にプラスするという特色を持ち続け、地域の産業である観光に貢献できればと活動している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

- ・コンシェルジュ地図の作成により、スムーズな案内ができるようになった。
- ・日本語地図の改訂により案内場所が増え、観光客のニーズに答えられるようになった。
- ・英語版地図は、松本在住のネイティブの方の視線を取り入れ、飲食店情報も充実させた。
- ・シンポジウムの開催がメンバーの増員につながった。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H24	市民観光コンシェルジュがつなげる人と街事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語版コンシェルジュ地図の作成及びJR松本駅コンコースで観光案内を実施</li> <li>・レンタサイクルの貸出し</li> <li>・コンシェルジュ育成講座の開催</li> </ul>	602 千円
H25	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動場所をJR松本駅ほかにも広げ、観光案内を実施</li> <li>・日本語版コンシェルジュ地図の改訂及び英語版地図の作成</li> <li>・無料レンタサイクルの貸出し</li> <li>・おもてなし向上シンポジウム及び松本ブランド勉強会の開催</li> </ul>	402 千円
H26	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR松本駅ほかでの観光案内</li> <li>・英語版ロコミマップ作成</li> <li>・ロコミマップのARを制作</li> <li>・英語地図で街歩き講座の開催</li> </ul>	455 千円

### 最近の活動内容

- ①H25年度から地元の松本大学のゼミと取り組み開発した土産品「日本酒チョコレート 松本蔵巡り」(旅行雑誌「るるぶ 2017年春 大町・安曇野・松本」に推奨おみやげ品として掲載)の販売。
- ②地元山辺の特産品のぶどうによる干しぶどうの商品化を地域と協働での展開と販売。販売は2段階で、H28年に低価格帯を販売、高価格の本格的な展開はH29年秋から開始。  
※以上①②の売上げを活動費としている。
- ③ここ数年顕著になっているインバウンドについて、他団体(民間・任意)と連携し、元気づくり支援金で作成した英語版地図を更に使い易い地図にして利用者の利便性を高めるべく取り組んでいる。



【 松本駅での案内活動 】

④県の観光誘客課が H26 年度から開催している「おもてなし未来塾」へ 2 期生 (H27 年度)、3 期生 (H28 年度)、4 期生 (現在受講中) として各 1 人ずつ参加し、コンシェルジュとしての在り方や県内のネットワーク構築に取り組んでいる。  
(2 期、3 期受講者はおもてなしマイスター取得)



【海外からの旅行者目線での街歩き講座】

### 取組の効果

Facebook ページ「松本観光コンシェルジュ」とブログを運営し、活動時期前の事前告知などを繰り返してきた結果、認知度が上がり、コンシェルジュの活動時期が認識され、イベントのチラシやパンフレットの配布や案内の依頼を受けることが増えてきた。また、インバウンドの増加もあり市内のホテルから口コミマップ英語版のリクエストをしていただけるようになっている。そして Facebook ページから県外や海外から松本に旅行をしようとしている方から質問をいただき、お答えすることも増えた。

現在 3 名のおもてなし未来塾受講者 (1 名は現在受講中) がおり、普段は出会えない県内の各方面の方とつながってきた。これにより自分たちの知識を増やし、松本だけではない広域での内容の濃いご案内を提供できる機会が増えている。

自分たちの「知っている」が、そのままなのか、グレードアップされているのか等、その場に行ったり情報を得ることに努め、常に自分たちの「知っている」を更新するよう心がけている。

### 課題、今後の事業展開など

インバウンド慣れしてきたと思われる松本であるが、やはりまだ対応に苦慮している個人店は多い。簡単な英会話の講座を開き、その中で飲食店などのメニューの英語化などのコンテンツを提供できればと考える。

もう一点は、広い松本を繋ぐ商品の開発・販売を目指すことである。個人個人では繋げない部分をつなぎ、そのらしさを伝える商品を提供することも、この事業のテーマである人と街を繋げることであり、地域貢献となると考える。

団体名	まつもと城町市民コンシェルジュ (松本市)
連絡先	代表 大森 女礼
	携帯 090-3343-5348
Facebook ページ	松本観光コンシェルジュ

**塩の道博物館から塩の道ちょうじやへ  
(塩の道コミュニティエリア再生事業)  
(一般社団法人 縁家)**

**団体紹介 (私たちが目指しているもの)**

私たちの団体は、「塩の道博物館」閉館に伴い、この地域の塩の道文化が衰退していくことを危惧し、「塩の道ちょうじや」として再生させ、「千国街道・塩の道」を後世に継承していくことを目標に、平成25年3月に設立した。

現在、「塩の道ちょうじや」は、博物館・資料館としてだけでなく、大町地域の伝統文化の情報発信の拠点として、様々な講座を開設している。

**地域発 元気づくり支援金の活用状況**

「塩の道博物館」を「塩の道ちょうじや」として再生するため、トイレ等施設の改修やカフェスペースの設置等を行ったほか、大町地域の伝統文化を学ぶ講座等を開催した。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H25	塩の道コミュニティエリア再生事業	「塩の道博物館」を「塩の道ちょうじや」として再生するため、施設の改修と地域の食をテーマとした講座を開催	3,375 千円
H26	塩の道コミュニティエリア再生事業	コミュニティスペースを屋外にも拡張整備し、年配者と子ども、親子間の交流が深められるようなイベント等を開催	2,153 千円
H27	塩の道コミュニティエリア再生事業	活用希望の多い土間を新たなコミュニティスペースとして整備し、建物や千国街道の歴史にちなんだ講座等を開催	1,133 千円

**最近の活動内容**

継続的に文化講座を開催し、多くの地域住民に参加いただいているほか、行政機関や他団体と連携した様々な企画展を開催したり、小中学校の社会科学習、職業体験の場としても活用されている。併設するカフェでは、地域の食材「えご」を使用したスイーツや、「塩の道」にちなんだスイーツの提供もしているほかインバウンド向けの和服体験や文化体験なども行っている。



【夏休みこども縁日】

**取組の効果**

地域を学ぶ文化講座は、参加者が広域的に増えているほか、信州大学の研究事業にも発展している。北アルプス国際芸術祭開催期間中は、タイアップレストランとして、併設するカフェで地域の食を発信した。

また、「塩の道ちょうじや」の「主屋」と「土蔵」は、大町市初の国登録文化財建造物として登録された。



【信大建物調査結果報告会】

**課題、今後の事業展開など**

全国的に団体旅行が減少しており、入館者数も伸び悩む中安定した収入を維持させる事が課題である。今後は、建物を維持管理しながら、個人客をターゲットにした企画等を常に考え、リピーターを増やしていきたい。

団体名	一般社団法人縁家 (大町市)
連絡先	0261-22-4018
ホームページ	<a href="http://www.alps.or.jp/choujiya/">http://www.alps.or.jp/choujiya/</a>

## ノーマライゼーションの推進事業

(えんがわ)

## 団体紹介（私たちが目指しているもの）

障がい者（子を持つ親を含む）が当事者として発信していく場がなく、発信することで地域への理解を広げたいと思う仲間が平成24年に設立し、地道に活動している。

活動範囲は、千曲市・長野市南部で、設立時は構成員が5名であったが現在は11名に増え、健常者との相互理解を深めるため啓発を重ねている。

## 地域発 元気づくり支援金の活用状況

障がい者やその介助者が自ら取材に出向き、当事者にとって必要な情報が掲載されたガイドブックを作成したことにより、障がい者とその家族の外出促進が図られた。また、取材を通し車椅子利用者が外出することの困難さについて店舗や施設等の理解が深まり、ノーマライゼーションが推進する事業効果がみられた。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H26	「障害のある車椅子の子どもの持つ親のためのガイドブック」発行事業	障がいのある車椅子利用者が家族と一緒に外出することを促進するため、車椅子で利用できるトイレや食堂等の施設情報を収集し、当事者や介護者が取材に関わりながらガイドブックを作成する。	1,600千円
H29	「障害のある車椅子の子どもの持つ親のためのガイドブック」更新版発行事業	障がいを抱える子どもやその家族が地域で安心して生活が送れるよう情報の共有を図るため、本冊子（H26年作成）の更新版を作成する。更新にあたっては、前回の車利用から公共交通機関の利用に焦点を当てるとともに、冊子の配布は、一般の方々への理解を得るためフリーラックにも新たに配架する。	1,580千円 (交付決定額)

## 最近の活動内容

千曲・坂城自立支援協議会や長野市障害ふくしネットのこども部会に参加し、地域で安心した生活が送れるよう継続的に情報を共有し、課題を検討している。

また、毎月定例会を開催し、情報共有・情報交換を行いながら講演会、学習会の開催など啓発活動を行っている。



【ガイドブック及びWebサイト】

<http://kurumaisu-oyako.co>

## 取組の効果

障がいを抱える当事者の目線で作られたガイドブック（H26）は、学校、福祉関係者で活用されており、冊子やWeb版を見た子育て家庭、高齢者介護家庭からの問い合わせも多かった。また、店舗や施設はバリアフリー化やそれに伴う工夫検討等につながっており、健常者との相互理解が図れてきている。

この事業が千曲市協働事業になったことでより多くの市民やボランティア団体に広めていけるような機運になってきた。

資金面では、講演会費用にクラウドファンディングを活用したり、経費を節減してより効果的、継続的に運営が行われている。

## 課題、今後の事業展開など

更新版のガイドブックでは、障がいを抱える子どもや家族にとっての公共交通機関の便利性に焦点を当て、「みんなでおでかけ」を冊子タイトルにして更に健常者との相互理解を深めていく。

団体名	えんがわ（千曲市）
連絡先	代表 大久保 090-2213-5716
メールアドレス	engawa.h24@gmail.com

## 志賀高原ユネスコエコパーク蓮池外来種駆除事業 (志賀高原観光協会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

志賀高原の発展に寄与するため、観光に関する企画・広報活動等を実施している。自然公園法に基づく自然保護・育成、環境整備と観光事業の両立を図り、景観保全に力を注いでいる。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

地元観光業者をはじめとした関係者のほか、山ノ内町東小学校においてユネスコエコパーク環境学習プログラムの野外学習の一環として位置づけられ協働作業を行うなど多くの住民が参加する作業として定着が図られた。

活用年度	事業名	事業概要	支援金額
H26	志賀高原ユネスコエコパーク蓮池外来種駆除事業	地元の観光事業者を対象に外来種の講習会を実施するとともに、専用刈り取り機を導入し蓮池の外来種（水草）を除去した。	2,401 千円
H27	第2期 志賀高原ユネスコエコパーク蓮池外来種駆除事業	水草の除去にあたり地元業者とともに新たに水草刈り機を制作、除去作業を行った。	624 千円
H28	第3期 志賀高原ユネスコエコパーク蓮池外来種駆除事業	制作した水草刈り機に改良を加え、除去作業を行った。	490 千円

### 最近の活動内容

- 29年度は水草の除去は行わず、周辺の遊歩道等の整備を地元関係者及び小学生等で実施した。

### 取組の効果

- 蓮池の水草刈りは3年間継続して行った結果かなりの改善が見られ、蓮池本来の美観を取り戻すことができた。
- 地元関係者の景観保全への意識が年々高まり、志賀高原内の他の湖沼や湿原等においても外来種駆除作業が実施された。
- 地域住民が協働して作業を行うことにより環境保全の知識が高まるとともに地域への愛着心が向上し、観光地としてお客様を受け入れるおもてなしの意識にも変化が見られ、地域の活性化につながった。



### 課題、今後の事業展開など

- この活動が契機となり、蓮池を中心とした自然公園整備計画の検討が始まった。グリーンシーズンにおける志賀高原全体の誘客に結び付くよう事業を展開していく。

団体名	志賀高原観光協会（山ノ内町）
連絡先	下高井郡山ノ内町大字平穏 7 1 4 8 0 2 6 9 - 3 4 - 2 4 0 4
ホームページ	<a href="http://www.shigakogen.gr.jp/">http://www.shigakogen.gr.jp/</a>